

こどもが まんなか

いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信
No.6 令和5年3月20日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロード
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>



★令和4年度 訪問支援を終えて★

令和4年度いわて幼児教育センター事業の一つ「訪問支援」では、2名の幼児教育専門員が県内33市町村中29市町村の就学前施設や各種団体を79件訪問し、子どもへの援助や環境構成・子ども理解、子どもの姿の読み取り・保護者支援・特別支援等々多岐にわたる内容で相談やアドバイスを行いました。

訪問支援に行った時に、「どこから来たの?」「お弁当持ってきたの?」と人懐こく聞いてくる子どもたちが多くいました。子どもがワクワクした気持ちで遊んでいる姿を見ると、見ている私達も方もワクワクを感じて楽しくなってきます。保育者が子どもの気持ちを共感的に感じ取り、ワクワク感を共有していくことが大事だと改めて思いました。

子ども主体の保育について学びたいという園が多く、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に保育をしたいという先生方の熱意が伝わってきました。また、前期、後期と2回訪問支援に伺った園が11園ありました。訪問支援をきっかけに、子ども主体の保育についてエピソード記録や事例を基に園内研修を行い、子どもを真ん中にして先生方が自分の考えを出し合い、互いに保育の質を高めていこうと頑張っている園が増えてきたのはとても嬉しいことです。

令和5年度は県内のより多くの就学前教育施設に訪問させていただき、保育内容などの相談をいただく中で、就学前教育施設といわて幼児教育センターがさらに関係性を深め、各園の保育の充実に貢献させていただけたらと思います。



岩手県 幼児教育アドバイザーの紹介及び活動について★

いわて幼児教育センターでは「幼児教育推進モデル指定研究事業」を行っています。指定地区の紫波町(R3~4)、釜石市(R4~5)で幼児教育アドバイザーとしてお力添えいただいている3人の先生の活動を紹介します。

岩手県 幼児教育アドバイザー(紫波町) ひよこ保育園 副園長 小田中 清子 氏

令和3年度から2年間紫波町立古舘保育所において「保育所内における教育・保育に係る専門性の向上を図るため、対話的な職場風土を醸成する」ことを推進テーマに、年5回程度訪問いたしました。職員が顔を合わせられる時間が限られている保育所にあつて、体制の工夫も必要な難しいテーマです。1年目は組織力向上をめざして、職員の意識調査アンケートから課題を把握し、改善するために、リーダーとしての役割の理解を深めるための講義、演習、ビデオ視聴等を行いました。2年目は3歳以上児、3歳未満児の保育者がそれぞれ短時間(15分)でも意図的に会話する「いちご(15分の1と5)タイム」「いちごちゃん会議」の実践が始まりました。会議では職種を超えて様々な視点から全員の意見が出されて、園全体で保育する意識の高まりが感じられました。今後、継続していくことで「対話的な職場風土」が自然に醸成されていき、保育の質の向上に必ず繋がっていくことでしょう。アドバイザーはきっかけ作りに過ぎず、現場の先生方の意識や熱意が一番であるということを感じ、私自身も多くを学ぶことが出来た2年間でした。ありがとうございました。

岩手県 幼児教育アドバイザー（釜石市）

聖パウロ幼稚園 園長 坂水 かよ 氏

釜石市の研究は、「円滑な保幼小の接続のために、『主体的・対話的で深い学び』の実践に向けての学びを深め、幼児教育の資質向上と保育者の専門性の向上を図る」ことを目指して取り組んだ1年でした。私はアドバイザーとして、3回の研修に招かれ共に学ぶ機会をいただきました。少しその様子を紹介します。第1回目は7月1日に釜石市上中島こども園の園内研修。主に課題活動の様子を参観し、午後には参加者の皆さんと協議の時間が持たれました。私の役割は感想等含めたアドバイスをすることでしたが、あくまでも指導者ではなく上中島こども園が、自分たちの保育のよさに気づくこと、そして課題を見つけていくこと、“自分たちで”改善に向かっていくための一助になればとの思いで関わらせていただきました。第2回目（9月15日）は釜石市幼児教育施設合同研修会で、「豊かな経験と学び」をテーマにお話をさせていただき5歳児の育ちを共有、加えて指導主事さんの講話やグループワーク等、参加者が熱心に学んでいる姿が印象的でした。第3回目の2月8日は再び上中島こども園の園内研修でしたが、信頼関係を土台にし、自ら楽しそうに遊ぶ子どもたちの成長した姿に研修の積み重ねの重要性を実感した1日でした。



岩手県 幼児教育アドバイザー（釜石市）

みどりの保育園 園長 高木 宏子 氏

釜石市では今年度より2年間、県指定「接続期の保育・教育の推進」をテーマに幼保こ小の先生方が合同で研究に取り組まれています。訪問第1回：6月24日（金）鶴住居幼稚園にて保育研究会。「資料の表記の仕方（保育の中での学びの表記）」「チームでの評価・多角的分析」「担任とサポート教諭の、子ども一人一人の育ちの共有を積み重ねた密な連携が指導に生かされている」ことをお伝えしました。小学校の先生から「園で様々な経験をし、育っていること」「接続期の保育・教育を見通して授業を考えていかなければならない」と感想をいただきました。第2回：8月25日（木）平田小学校1年生生活科の授業公開（小単元「あさがおであそぼう」）研究会。本日の授業に至るまでに、「自分たちでやってみたいことやその実現のための準備を話し合った」ことで「就学前の経験を生かした主体的に探究する授業の展開」であったとお伝えしました。第3回：鶴住居幼稚園にて第2回保育研究会。「自分の思いや考えを伝え合い、自分たちで問題解決しようとする姿を見守る先生方のかかわりや時間と場の保障」「気持ちを切り替えたいくなるタイミングを見計らったことばかけ」等、多くのことを学び合うことができました。子どもを真ん中に異校種の先生方が語り合いを積み重ねていくことで指導の工夫が生み出され、「子どもたちの学びや育ち」につながっていることを実感しました。先生方の熱意に感動すると共に来年度が大変楽しみです。



★幼児期の教育と小学校教育連携・接続の取組紹介★

3月中旬、訪問支援で小学校との連携・接続を積極的に進めている保育園に行ってきました。この保育園は、小学校（年長児が入学する予定の学校）と近隣の保育園、教育委員会に声をかけて、年2回の保育参観とその後の職員の交流、さらに小学校での授業参観も年2回実施しています。保育参観の前に電話や文書での打合せを丁寧に行い、当日は、参観者から保育を見ての感想をもらい、情報交換を行っています。情報交換が終わってから、園の先生方で振り返りをして保育園でできることは何か、成果や課題は何かをまとめて小学校に伝えています。

参観当日に園が配付する資料には、当日の活動の流れの他に、これまで子どもたちがどのような経験をしてきたのかが分かるようなドキュメンテーションも加えています。最後の保育参観の後には、就学児についての情報交換や来年度の交流計画の話し合いも行っています。こうした活動をとおして小学校との関係作りも進み、小学校の校長先生から「給食参観にもどうぞ」と声をかけられ、参観の機会も広がっています。

「小学校区内で園同士の横のつながり、小学校、教育委員会との縦のつながりをもって取り組んでいること」「園と小学校が顔の見える関係になっていること」等により、幼児期の教育と小学校教育の連携・接続が今後ますます充実しそうです。

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。